

天文 と歴史

第3回

今回のミュージアム連続講座、テーマは「天文と歴史」。

火星探査や民間企業の躍進に注目が集まる中、
先人たちはどのようにして天体への理解を深めてきたのか？

そもそも天体とは…？

多種多様な視点で天体について考えます。

日程：2022年3月13日(日)★20日(日)★27日(日)

時間：14：00－16：00 (13：30 開場)

定員：50名 参加費：無料

会場：大阪市立難波市民学習センター 講堂

申込方法：裏面をご参照のうえ、事前にお申込みください。

※3回通しのお申込みになります。

申込締切：2022年2月27日(日)

月齢 14.2 満月 / クレジット：国立天文台

天文と歴史

ミュージアム
連続講座
2021

全3回

申し込み方法 締切: 2022年2月27日(日)



インターネットからの申し込み

大阪市生涯学習情報提供システム「いちょうネット」
(<https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/>) から、「講座・イベント」を選択し、キーワード欄に「ミュージアム連続講座」と入力・検索のうえ、お申し込みください。



センターへ来館しての申し込み

返用はがき、もしくは、はがき代63円をご持参のうえ、センター窓口にてお申し込みください。開館時間 9:30～21:30 (日曜・祝日17:00) (休館日毎月第1・3水曜日)



往復はがきでの申し込み

名前、住所、電話番号、返信用宛名面をご記入のうえ、難波市民学習センター「ミュージアム連続講座」係までご応募ください。(※2022年2月27日(日)必着)

会場: 大阪市立 難波市民学習センター 講堂

〒556-0017 大阪市浪速区
湊町1丁目4番1号 OCATビル4階
<https://osakademanabu.com/namba/>



●Osaka Metro (旧:市営地下鉄)各線「なんば駅」、南海電車「難波駅」、近鉄・阪神電車「大阪難波駅」よりなんばウォーク・OCATウォークを西へ。「OCAT」「JR線」の表示に沿ってお越しください。●JR「JR難波駅」すぐ。●大阪シティバス (旧:市バス)「JR難波駅前」下車すぐ。

問い合わせ先: 大阪市立難波市民学習センター



TEL: 06-6643-7010

〈個人情報の取り扱いについて〉
■ご記入いただきました個人情報は、講座ご参加の確認や、講座に関するご連絡のためにのみ使用し、お申込みをもって使用に同意されたものとさせていただきます。■主催者: 大阪市教育委員会 ■ご記入いただきました個人情報は、講座の開催・運営に必要な範囲 (上記利用目的の範囲) において、個人情報の全部または一部を預託・共同利用する場合があります。(共同利用者の範囲: 大阪教育文化振興財団・SPS 共同事業体 (指定管理者)、事業体構成団体: ①一般財団法人大阪教育文化振興財団 ②サントリーパブリシティサービス株式会社) ■個人情報の取扱い、苦情及びご相談に関するお問い合わせ先: 個人情報保護管理者代理人 一般財団法人大阪教育文化振興財団 総務課長 宛 Tel: 06-4963-2527 (月～金 10:00～17:00)

〈講座の開催中止について〉
「大阪府域」に「暴風警報」または「特別警報」が午前11時の時点で発令されている場合、もしくは地震等で大阪環状線とOsaka Metroの双方が運行を停止した場合、講座は中止とさせていただきます。詳しくはセンターまでお問い合わせください。

〈コロナウイルス感染症防止対策について〉
新型コロナウイルス感染症予防対策の一環と致しまして、以下にご協力ください。
1. 会場入場時にアルコール消毒等手洗いに協力ください
2. マスクを着用してご参加ください
3. 当日、発熱や風邪のような症状のある方につきましては参加をお控えください
新型コロナウイルス感染症拡大状況によりましては、本講座を中止または延期とさせていただきます場合がございます。あらかじめご了承ください。



フェルメールの「天文学者」/ウィキペディアより

①「人類は宇宙をどのようにとらえてきたか」

石原 秀樹

大阪市立大学大学院理学研究科 教授

地球が丸いことを知っていますか? 地球が太陽の周りを回っていることを知っていますか? 宇宙が膨張していることを知っていますか? 人類はこれらのことを昔から知っていたわけではありません。宇宙の見方がどう発展してきたかをお話します。

芋名月 (和歌山県伊都郡高野町花坂にて)



①「月と人—観月、盈虚、月光の民俗—」

俵 和馬 大阪歴史博物館 学芸員

月を見つめる心性とはいかなるものだったのでしょうか。そこには、ただ美しいものを眺めたいという以上に、日々の生活に密着した意味がありました。この講座では、芋名月や月の盈虚に対する伝承など、いくつかの民俗事例を取り上げ、月と人間の素朴なつながりを考えます。



北斗七星と星座 (高句麗徳花里2号墳 6世紀)

①「朝鮮半島高句麗の壁画古墳—天と星にかけの願い—」

南 秀雄

大阪市文化財協会 学芸員

紀元後3～7世紀ごろ、朝鮮半島北部では多くの壁画古墳がつくられ、太陽・月・星座はもとより、天の川と七たも描かれました。これらは他のさまざまな図像とともに、現世の命がつきた後に暮らす理想郷、天の世界を表しています。精巧に描き込まれた壁画から、高句麗の人々の天と星にかけた願いを読み解きます。

第1回

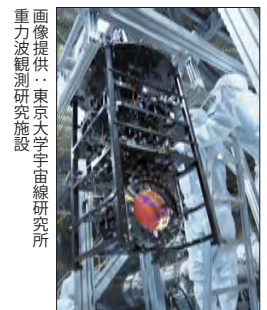
2022
3/13
日曜日

②「宇宙を聴く新しい観測手法: 重力波天文学のはじまり」

伊藤 洋介

大阪市立大学大学院理学研究科 准教授

2015年9月、アメリカの重力波検出器が2つのブラックホールが合体する過程で生じた重力波を観測し、人類は宇宙を観測する新しい手法を手に入れました。本講演ではアインシュタインの予言から100年、重力波観測のための科学者の努力を振り返り、また最新の観測成果についてお話します。



画像提供: 東京大学宇宙線研究所
重力波観測研究施設

第2回

2022
3/20
日曜日



火星探査機パーサビアランス
©NASA/JPL-Caltech/MSSS

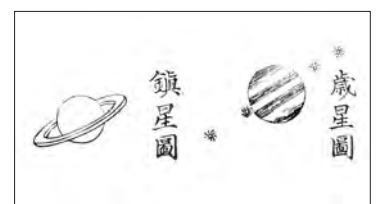
②「火星を知る」

飯山 青海 大阪市立科学館 学芸員

人類は、火星がどんな星であるか、どうやって知ってきたのでしょうか。過去には火星人がいると考えられていた時代もありました。当時の人たちは何を根拠に火星人の存在を考えたのでしょうか。そして現在、多くの探査機の成果によって、人類は火星を詳しく知るようになりました。さらに将来の火星探査が目指す科学もお話します。

第3回

2022
3/27
日曜日



岩橋善兵衛『平天儀図解』の惑星図(1802年)

②「江戸時代の天文学者と太陽系」

嘉数 次人

大阪市立科学館 学芸員

江戸時代の天文学は、毎年の正確な暦を作ること、為政者のための天文占いを主目的としていました。一方、江戸後期になると天文学者たちは西洋天文学の影響を受けて、惑星や彗星の運動などにも興味を持ち始めました。江戸後期の天文学者たちによる太陽系天体の研究の様子を紹介いたします。